

菊池陽子・白石昌也編

『アジア太平洋戦争期の大陸部東南アジアに関する  
“朝日新聞”（東京本社）記事リスト一覧』

早稲田大学中央図書館リポジトリ、2018年12月

## 目次

編者序文	.....	2
凡例	.....	4
1940 年	.....	5
1941 年	.....	4 0
1942 年	.....	1 2 1
1943 年	.....	2 5 1
1944 年	.....	3 3 9
1945 年	.....	3 8 0

## 編者序文

菊池陽子（東京外国語大学准教授）

白石昌也（早稲田大学名誉教授）

本資料は、アジア太平洋戦争期の1940年（昭和15年）1月から1945年（昭和20年）12月までの期間に、『朝日新聞』（東京本社）に掲載された大東亜、南方地域、大陸部東南アジア（仏印もしくはインドシナ、タイ、ビルマ）に関する記事のタイトルをリスト化したものである。

ほぼ同じ期間を対象とした先行リストとして、アジア経済研究所『『朝日新聞』（東京版）にみる「大東亜共栄圏」－1941～45－：記事索引』（所内資料：調査研究部 No.57-1）1983年3月がある。我々は、以上の先行リストを参照しつつも、次のような面で工夫を試み、独自色を出すことに努めた。

（1）先行リストは1941年度分からリスト化しているが、我々のリストはさらに1940年度分を付け加えた。大陸部東南アジアでは、仏印国境監視団の派遣、北部仏印進駐、タイ・仏印国境紛争の勃発などの重要事件が1940年に生起しており、それらに関する記事の見出しを収録することには、大きな意味があると考えた。

（2）1941～1945年度分については、先行リストの脱漏を補うことに努めた。

（3）『朝日新聞』（東京本社）の縮刷版には各巻の冒頭に記事索引が付されており、先行リストはそれに依拠しているが、それら記事索引は往々にして実際の記事の見出しと異なっている。我々は該当記事を参照し、原文の見出しを（漢字の書体、仮名遣いを含めて）忠実に記載することに努めた（「凡例」を参照）。

（4）先行リストでは、各記事を「アジア」「仏領インドシナ」「タイ」「タイ・仏領インドシナ国境紛争」「ビルマ」に分類し、項目ごとに纏めて記載している（つまり、例えば仏領インドシナとタイに関する記述が別々の頁に印刷されている）。それに対して我々は、「大東亜」「南方」「佛印」「タイ佛印国境紛争」「タイ」「ビルマ」に分類した上で、それらを同じ頁に並列して作表した。このようにすることで、同一時期に各国・地域で生じた事象を比較しつつ俯瞰することが容易となる。なお、「タイ佛印国境紛争」の欄は、1940～1943年に限って設けた。1944年3月6日以降、夕刊は発行休止となったため、夕刊、朝刊欄は1945年では削除した。

（5）作表に際しては、掲載月日のみならず、該当記事が掲載されている紙面の頁数を明示した。

（6）記事の執筆者や発信者が判明する場合には、それを「発信元、特派員」欄に明示した。

（7）写真や地図など図版類が掲載されている際の記載については、「凡例」に説明したとおり、キャプション付きの場合と、キャプションなしの場合とで欄を分けて記載し、かつ

早瀬晋三・白石昌也編『朝日新聞大阪本社所蔵「富士倉庫資料」(写真) 東南アジア関係一覽』(研究資料シリーズ No.6) 早稲田大学アジア太平洋研究センター、2017年3月にリストアップされているインドシナ写真類の場合には、同資料の箱、封筒、写真番号を付記した。なお、この「富士倉庫資料」欄は、新聞掲載の写真とリストの写真が一致した1940年、1941年に限って設けた。

関連記事のタイトルのリスト化作業は、2015年4月から2018年3月にかけて、東京外国語大学図書館の所蔵する『朝日新聞』(東京本社)の縮刷版を対象に、東京外国語大学の学生諸君の協力を得て実施された。

リスト作成にあたっては、安齋晴華、岩岡知子、斎藤修揮、田中愛、寺口すみれ、山崎美保の諸君の協力を得た。この間、東京外国語大学附属図書館の職員の方々にも、お世話になった。また、以上のリストの校正作業や編集作業については、斎藤修揮、山崎美保の諸君の協力を得た。ここにお礼申し上げる。

以上の事業が可能となったのは、白石昌也が研究代表者、菊池陽子が研究分担者の一人として加わった日本学術振興会科学研究費基礎研究(A)一般(課題番号25243007)「第二次世界大戦期日本・仏印・ベトナム関係研究の集大成と新たな地平」(2013～2017年度)によるところが大きい。さらに、早稲田大学の2013年度特定課題研究費「第二次世界大戦期日本・仏印・ベトナム関係研究の集大成と新たな地平」、ならびに2016年度特定課題研究費「第二次大戦期ラオス、カンボジアの政治・社会的ダイナミズムに関する萌芽的研究」から補助的な支援を得た。また、2018年度に実施した最終的な編集作業については、東京外国語大学平成30年度「研究支援員制度」(ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業)からの助成を得た。

2018年12月 編者記す

## 凡例

- 一、漢字の書体や仮名遣いは、原文のままとした（漢字によっては旧書体と新書体の双方が使用されているが、いずれかに統一することはせず、それぞれ原文のままとした）。
- 一、原文で○○や（ ）が用いられている場合には、そのとおりとした。
- 一、社説や書評欄などに掲載された記事については、その旨を（社説）（書評）などと編者が補った。
- 一、判読不明の箇所は□で示した。
- 一、見出しの理解のために編者が補った語句は〔 〕で括った。
- 一、当時の新聞は、夕刊に関しては、紙面の日付は実際の発刊日の翌日になっていた。例えば1月6日の夕刊は1月5日の午後に発刊され、1月6日の朝刊は1月6日の午前中に発刊されていた。したがって、同じ日付の場合、夕刊（0）、朝刊（1）の順に記載した。ただし、1943年10月11日以降は夕刊の発刊日と紙面の日付が同一になったため、朝刊（1）、夕刊（0）の順に記載した。
- 一、同じ紙面で、同じ国・地域に関して複数の見出しがある場合には、／で区切った。
- 一、写真が掲載され、それにキャプションが付されている場合には、「写真キャプション」の欄に原文のまま記載した。他方、キャプションが付されていない写真や地図などについては、「キャプションなし図版類」の欄に一括し、その内容を簡単に説明する語句を付け加えた。さらに、早瀬晋三・白石昌也編『朝日新聞大阪本社所蔵「富士倉庫資料」(写真)東南アジア関係一覧』(研究資料シリーズ No.6) 早稲田大学アジア太平洋研究センター、2017年3月にリストアップされているインドシナ写真の場合には、同資料に付した箱、封筒、写真番号を記した。